

博物辭典

藤 本 治 義

岡 田 彌 一 郎

三 輪 知 雄

株 式 會 社

東 京 三 省 堂 大 阪

博物辭典

藤 本 治 義

岡 田 彌 一 郎

三 輪 知 雄

株 式 會 社

東 京 三 省 堂 大 阪

NO 10

昭和十三年二月十日 印刷
昭和十三年二月十五日 發行



博物辭典

定價二十二圓

編者

藤本治義
岡田彌一郎
三輪知雄

發行者

東京市神田區神保町一ノ一
株式會社三省堂
代表者 龜井豐治

印刷者

東京市蒲田區仲六郎一ノ五
株式會社三省堂蒲田工場
代表者 喜多見昇

發行所

株式會社三省堂
本社 東京市神田區神保町一ノ一
振替東京三一五五五番
支店 大阪市西區阿波座下通二ノ六
振替大阪八一三〇〇番

序

理科教育の眞髓は、自然の事物及び現象を正確且つ精細に觀察並びに考察して、それを卒直に教ふるにある。故に理科教育者には自然物及びその凡ゆる現象に就ての正確な知識の資料を必要とする。抑々自然科学の研究は較近日々に進み闡明さるる點甚だ多く、吾等に新知識を提供する事が夥しい。爲めに理科教育者は短時間に於てその新事實の多くを知るに甚だ困難を覺えてゐる。加ふるに現今動物・植物・生理・衛生・地質・礦物等を含む所謂博物學に就ては夫々多くの参考書が發刊され、尙各部分的の辭典の發刊も見てゐるが、何れも中等教育の資料としては餘りにその内容が詳細に過ぎるの點がある。茲に於て編者等は、中等教育に關する博物學全般に亙る辭典の必要を感じ、協力してその編纂に當り、三省堂主龜井氏の賛意を得て出版するに至つた。是に掲ぐる所の語彙は一萬五千餘語に及び、苟も中等教科書及びその参考書に掲げられた學術語は悉く之れを網羅し、之れが解説は簡明を旨とし、亦之れを説明するに多くの挿圖を以てした。故に本辭典一本により中等教育程度の博物學教授上の參考には何等缺陷を感ずる所がないと信ずる。

本書は昭和九年二月之れが編纂を企圖し、編者中動物・遺傳等を岡田彌一郎が、植物・生理・衛生を三輪知雄が、地質・礦物を藤本治義が分擔し、茲に約四年の星霜を経て出版の域に達したが、その間絶えず編纂に就て援助下さつた次の諸氏に深甚の謝意を表したい。

荒木次郎	池田兵司	池田康	上村三男
大熊篤二	大野忠廣	奥保男	木場一夫
小林義雄	末松四郎	高橋敬三	高橋定衛
高橋恵	田村治	津田貞太郎	鄭啓棟
馬場菊太郎	洞澤勇	松本肇	三輪保
山崎二一	吉井清一郎		

昭和十三年一月

編者識す

凡 例

§ 語 彙 の 範 圍

1. 本辭典に輯録した語彙は、植物學・動物學・生理學・衛生學・礦物學・地質學等の諸學科の植物・動物・礦物・岩石等の名稱及び術語並に夫等學科に關係のある重要人物を網羅し、其の數實に一萬五千語の多きに達してゐる。
2. 語彙の選定に當つては本邦に刊行された上記諸學科の高等専門參考書及び現刊行の中等學校教科書を根幹とし、加ふるに學術雜誌、其の他辭典等に普通に見られる博物關係の術語・新語を以て補足したものである。
3. 人物名は外人のみならず、本邦人をも出来るだけ選んだが、邦人の場合には物故した人だけに止め、現存者は加へなかつた。

§ 語 彙 の 排 列 及 び 見 出 し

1. 見出し語の排列は總て五十音順である。
2. 同一見出し語が二つ以上あるときは、植物・動物・生理衛生・礦物・地質の順に排列し、(1), (2), (3)等の番號を附す。

例、 タイセイ (1)大青 タイセイ (2)對生
 タイセイ (3)胎生 タイセイ (4)體制
 チカク (1)知覺 チカク (2)地殼 チカク (3)地核

3. 各見出し語は先づ發音假名遣による片假名にて見出しを置き、次に其の語の漢字を、更に其の語に該當する外國語を置く。

4. 見出し語の發音假名遣の一斑を示せば次の通りである。

イ	イ, ヒ, キ
エ	エ, ヘ, エ
オ	オ, ラ
オウ	アウ, アフ, オウ, オホ, ワウ
カ	カ, ク。
キウ	キウ, キウ, ケウ, ケフ
コウ	カウ, カフ, クウ, コウ
ジ	ジ, チ
シウ	シウ, シフ, シュウ
ショウ	シャウ, シウ, セウ
ジョウ	ジュウ, ジウ, セウ, デウ, デウ
ズ	ズ, ツ
ソウ	サウ, ソウ
トウ	タウ, タフ, トウ

ニ _ニ ウ	ニ _ニ ウ、ネ _ネ ウ
ノウ	ナ _ナ ウ、ノ _ノ ウ
ヒ _ヒ ウ	ヒ _ヒ ウ、ヒ _ヒ ウ、ヘ _ヘ ウ
ホ _ホ ウ	ハ _ハ ウ、ハ _ハ フ、ホ _ホ ウ、ホ _ホ ホ
ユ _ユ ウ	イ _イ ウ、イ _イ フ、ユ _ユ ウ、ユ _ユ フ
ヨ _ヨ ウ	エ _エ ウ、エ _エ フ、ヤ _ヤ ウ、ヨ _ヨ ウ
リ _リ ウ	リ _リ ウ、リ _リ ウ、レ _レ ウ、レ _レ フ
ロ _ロ ウ	ラ _ラ ウ、ラ _ラ フ、ロ _ロ ウ、ロ _ロ フ

其の他は之に準ずる。

5. 見出し語の發音假名遣の下には細字(ルビ)にて歴史的假名遣を附す。

例、 アイ_{アイ} 藍、 オウ_{オウ}ムギ 大麥
カイ_{カイ}アワセ 貝合せ、 セ_セカイガシ 石灰岩

6. 植物及び動物の學名(種名・屬名)はイタリ_{イタリ}クとし、命名者は並字とする。

例、 アサクサノリ 淺草海苔 *Porphyra tenera* Kjellm.
フナ 鮒 *Carassius auratus* Günther

7. 外國語は原則として英語を用ひたが、已むを得ない場合、或は英語よりも一般に廣く使用されてゐる場合には獨逸語・佛蘭西語・拉丁語等を用ひた。但し其の場合には外國語の前に(獨)、(佛)、(拉)等の文字を入れて外國語の所屬を明かにし、特に英語の場合には(英)とせず之を省略した。

例、 多細胞動物 Multicellular animal
推し被せ構造 Nappe structure, (獨) Deckenstruktur

8. 外來語の語尾の「ア」か「ヤ」は總て「ア」に統一してある。

例、 バクテリア、 マラリア 等の如し。

9. 外國語の見出しの場合、夫に對應する假名は出来るだけ當外國語の發音に近きものを用ひ、動物・植物等の學名は原則としてラテン讀みとする。

例、 ネアンデルタールじん Neanderthal man
プラスモジウム Plasmodium

10. 外國人名の見出しには同國語讀みで姓のみを書き、本邦人の場合には姓と名とを並記する。

例、 シュバ_{シュバ}ン Schwann, Theodor
イイジ_{イイジ}マ イサオ 假島 魁

11. 尚必要項目の見出しを容易、自由ならしむるために卷末に割索引並に歐文索引を附した。

§ 本文に關する一般的注意

1. 見出し項目と同義語のものは括弧【 】中に收む。

例、 イデンケイ 遺傳型【ゲノタイプ・遺傳因子型】
ケダニ 毛壁蝨【ツツガムシ・アカムシ】

2. 動物名・植物名には本文の初めに分類學上の位置を明かにしてあるが、其の採用せる分類體系は必ずしも學術的體系に拘泥せず、慣習に従ひ中等程度の學校で最も妥

當と信じたものを採用した。

3. 人物項には本文の初めに其の生歿年度を西暦にて (1803—1901) の形式で示し、現存者の場合には (1892—) の形式で示した。

4. 度量衡は總てメートル法を採用し、メートルは m, センチメートルは cm, ミリメートルは mm, ミクロンは μ ; グラムは g, キログラムは kg 等を用ひ、温度は攝氏を用ひ、攝氏 15 度は 15°C とした。

5. 數を示すものは原則としてローマ字を使用した。が、不確定な數、例へば數百年、十數箇等の如き場合、及び順序數例へば、第五神經、第三環節等の如き場合には漢字を用ひた。但し月及び世紀を表す順序數はローマ字とした。例へば 5 月、18 世紀等の如し。

6. 分數の場合、例へば三分の一、十五分の一、二百九十七分の一等は總て $1/3$, $1/15$, $1/297$ としたが分母が千桁以上の場合は漢字にて五千分の一、五十萬分の一とした。

7. 法則其他の新事實の發見、論文の發表等の年度は總て西暦を用ひた。

§ 諸 符 號 に 就 い て

1. $\rightarrow$ A なる項に説明を加へずして B なる項を見よとの意を示す。

例、ハタラキアリ 側蟻 $\rightarrow$ 「アリ」

オビレ 尾鰭 $\rightarrow$ 「ヒレ」

2. $=$ A なる項にて説明せず A と同義語の B にて説明を見られ度き旨を示す。

例、プラスモジウム = マラリアビョウゲンチュウ

アメーバ = アミーバ

3. * 参照項を示すものである。

例、*「雌雄異形」は雌雄異形の項を参照せよとの意。

4. 【 】 見出し語と同義語なることを示す。

例、大塚々【ゴリウ】、秩父古生層【秩父系】

5. — 期間、數等の判然してゐる場合に用ふ。

例、3—5 月、3—12 本、(3 月から 4 月の間、6 本乃至 12 本の意)

6. ~ 期間、數等の不確定な場合に用ふ。

例、3~5 月、6~12 本 (3 月か 4 月か 5 月、6 本か 7 本……12 本の意)

§ 附 録 に 就 い て

本辭典の附録として植物分類表・動物分類表・礦物分類表・地質時代區分表・博物關係の参考書及び雜誌・學校・研究所・學會及び學術團體、動植物名漢字索引、歐文索引等を輯録し、以て本辭典の理解及び活用を高め、尙又進んで斯學研究を志すものに一大便宜を企圖したものである。附録に就いての詳細は其の頭初に附した凡例を見られ度し。

圖 版 目 次

圖版 1 日本地質圖 (石版)	扉	る岩石の觀察 (原色版)	507
2 園藝植物 (原色版)	92	圖版 22 日本固有の鳥類 (原色版)	547
3 動物の利用 (網版)	104	23 天然紀念物 (網版)	572
4 淺草海苔の栽培並に製造 (網版) ..	105	24 天然紀念物 (網版)	573
5 日本固有の海產動物數種 (原色版) ..	121	25 動物地理區分圖 (石版)	584
6 海產動物の生態 (網版)	128	26 昭和 5 年北伊豆地震の際に生じた 丹那斷層の北部 (網版)	606
7 海藻 (網版)	129	27 洞爺湖と三原山 (網版)	607
8 日本の中生界の種々の菊石類 (網 版)	186	28 熱帶果樹 (原色版)	630
9 球狀花崗岩と球狀閃綠岩 (網版) ..	187	29 日本產爬蟲類 (網版)	644
10 畸形植物 (網版)	198	30 日本產兩棲類 (網版)	645
11 高山植物 (網版)	199	31 發光動物數種 (原色版)	660
12 日本產魚類數種 (原色版)	212	32 病原性原生動物 (網版)	700
13 高山植物 (原色版)	272	33 方解石の種々の結晶 (網版)	701
14 水晶の晶癖 (網版)	392	34 日本產化石象類の齒 (網版)	762
15 節理 (網版)	393	35 紡錘蟲類 (網版)	763
16 植物生態 (網版)	398	36 哺乳類 (網版)	770
17 食蟲植物 (網版)	399	37 動物の幼生 (網版)	771
18 世界植物生態分布 (石版)	400	38 本邦の臨海實驗所 (網版)	876
19 垂直分布 (網版)	426	39 本邦の產業に關する試驗場・調査所 並に研究所 (網版)	877
20 材幹の解剖 (網版)	427		
21 偏光顯微鏡平行ニコルの下に於け			

アアヨウガン —— 熔岩 Aa lava 風状熔岩のこと。

ハワイ語。*「塊状熔岩」

アイ 葎 *Polygonum tinctorium* Lour. 【タデノコ】 支那原産。タデ科の一年生草本。高さ約 60—80 cm。葉は互生、卵形或は廣倒卵形等で茎を包み、托葉を具へ、乾けば藍色に變る。10月頃小さな紅色の花を塊状花序に密生する。花後緑褐色で光澤ある果実を結ぶ。藍を採る染料植物で暖地で栽培される。併し今日では藍は合成的に得られるので、植物性の藍の利用は次第に少なくなつて來た。



ア イ

アイアイ *Cheirromys madagascariensis* (Gmelin) 哺乳綱・原鼠目の一科。マダガスカル特産。體は暗色で、耳圓形に似、眼と耳は大きく、尾は長大である。四肢は何れも手の作用をなし、前肢の第三指は他より細長く、第五指は無毛で細長い。第一指趾には爪があり、其の他の指趾には鉤爪がある。尾端刺を有する。

アイウクラゲ 相生水母 *Praya cymbiformis* Delle Chiaje 腔腸動物・ヒドロ蟲綱・管水母目の一科。2 層の無色筒形の体縁がその腹面と相對し、多数の触手を有する幹がその中間から垂れて居る。温暖な海に棲息し、本邦でも三崎其の他に見られる。

アイキ 嘔氣 Eructation 胃の中の氣體が口腔に逆行して來ること。その氣體は多くの場合食物に混じて嚥下された空氣であるが、又胃内の發酵腐敗で生じたガスの事もある。腐敗によるものは惡臭を伴ふ。健康者では過食の際に起り、病的のものには神經性嘔氣と胃炎に伴ふものとある。前者は反射機能的異常亢進に基づくもので、後者は慢性胃加害兒・胃擴張・胃潰瘍・胃腸過多症・胃低等の際に見られる。

アイゴ 藍子 *Siganus fuscescens* (Houttuyn) 魚綱・全頭目の一科。體は暗色で不鮮明の斑紋がある。體短し、小さな口を有し、眼後縁の 1 列の門歯をもつ。鰭骨・口蓋骨には無齒、背鰭・胸鰭の棘には兩型があり、鑿されたと疼痛が甚しい。背鰭 14 棘 10 軟棘、腹鰭 1 棘 3—4 軟棘、側面に各 1 棘がある。臀鰭は 7 棘より軟棘。本州中部以南に多く、朝鮮南部・廣西南部及びフィリピン近海に分布する。雑食性。

アイサ 秋沙 【鴈科】 鳥綱・鴨目・鴨科に屬する一群。體は少し細長く、翼は長い。嘴は細長く、鋭い鋸歯状の突起を有する。ヨーロッパ及びシベリア等で繁殖し、本邦には冬期渡來する。漁獲は巧みで主に小魚類を食する。渡來するものはミコアイサ *Mergellus albellus* (L.) ウミアイサ *Mergellus serrator* L.



ウミアイサ

カウライアイサ *M. squamatus* Gould. カハアイサ *M. merganser merganser* L. 等。ウミアイサが最も多数を占める。湖・江灣に棲息する。

アイズヤキ 倉津焼 福島縣大宮郡本郷町・阿北倉津郡南村から産出する産物の總稱。倉津焼の名前は此の地がもと倉津藩に屬し、江域下に近かつたのに因る。茶器が多い。原料は附近産の粘土及び石英燧岩の風化した高陵土が用ゐられる。

アイソジヤイ Isogyre 【等傾面】 干渉縞中に傾斜を帯をいふ。*「干渉縞」

アイソスタシー Isostasy 【地盤平衡説・地殼均衡説・均衡説・平衡説】 地球表面には海と陸との凹凸があつて、此の陸地は何れも海に永年の浮ぶ如く、流動體であるシマ(地殻)の上に浮んでゐる地球構成の最表層部をなすシアル(地盤)に相當する。



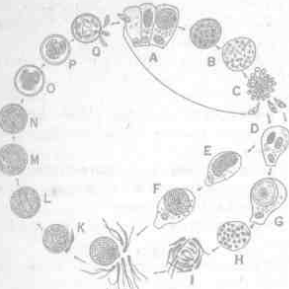
而してシアルは厚いもの程地表に高く突出すると共に、シマの中にも深く入り込んで全體が均衡を保つてゐるといふ説。この説を唱へ出したのはハーシェル Herschel で、之を地球物理学的に證明したのはプラット Pratt である。地球が剛體であつて、山岳が此の上に過剰なものと存在するとしたならば、山岳部に於ける重力の値は平地に於けるよりも大なるべき筈である。然るに 1835 年プラットはヒマラヤ山脈に於ける垂直線傾差を計算した處が、理論上の計算値の 1/3 に過ぎないことを知つた。之はシアルが山岳の突出に比例して流動體(シマ)の中にも深く入り込んで浮んでゐるため、重力の變化が小なるものであるとの説明を與へた。アイソスタシーなる語を始めて使用したのはダットン Dutton (1889) で、等傾を意味し、地表の高低如何に拘らず、地底下深さの處では單位面積上に加ふる壓力は總て等しいといふ意味である。此の壓力の等しい面は補償面といひ、計算の結果深さ 120 km とされてゐる。陸には莫大の侵蝕作用が働き常に削削されて、碎屑物が海に運搬される結果、陸地の重さは次第に輕減し、反對に海底には堆積が行はれて重きを加へ、此處に均衡が破られることとなり、之を平衡の狀態に回復しようとして絶えずシマ帯には海底側から陸地側に流れが生じ、漸次陸を押し上げ、海底は下降して其處に地殼變動を起すと解釋する。此の學理は地球物理學的に推理して成立したものである。この地質學の見地から見れば相當なる處である。

アイタク 藍茸 *Russula virescens* Fr. 又鵝山林に生ずる擔子菌類・マツタケ科の菌類。初めは半圓形で、後開展して扁平な鵝山林状になり、中央は深く窪んで表面は暗褐色を呈する。笠の表面は往々細裂し其の質軟く、鵝・鵝・藍子等は共に白色を呈する。生食すれば香味があるが食用となる。

アイナメ 鮎並 *Hexagrammos otakii* Jordan & Starks 魚綱・真口鰻科・全頭目・アイナメ科の一科。北海道南部から九州に至る沿岸、朝鮮南部に廣く分布する。産卵期 11—12 月頃。粘着卵で海底に附着する。體色は鰻鰻の鰻鰻があつて藍色・赤褐色・黒褐色を呈する。背鰭 19—20、臀 22、軟棘・臀鰭 21—23 軟棘、鰭軟 107—112、鰻鰻前骨後縁に鰻鰻が有る。鰻鰻及び鰻鰻には鰻があるが鰻鰻とはない。鰻がない。

アイメリア *Eimeria* 原生動物・孢子蟲綱・吸胞子蟲

節・頭目の一属。背性・節足・軟骨・環形等の運動物に廣く寄生し、宿主の消化管及び夫に關聯する組織中に見出される。配偶體は同大。夫より生ずる配偶體は雌雄によつて極端に異型の場合が多い。今本類中最も普通のアイメリア *Eimeria schubergi* に就いて述べる。この種はムナズの腸に寄生するもので、ムナズが本類のオオキスト Oocyst を通取すると、中



アイメリアの發生史

が腸子が破れてスゴロゾイトが自由となり(Q)、滑走運動等の運動によつて腸上皮細胞に達して侵入する(A)。やがて球形となり約 24 時間で完全に成熟する。この成熟型は多数分裂を行い、多数のメロゾイトを生ずる(B, C)。是に於て細胞は破壊せられてメロゾイトは腸腔内に放出し、スゴロゾイト同様の運動によつて新細胞に侵入し、成長分裂を反復する。約 5 日ばかりで無性生殖が 4—5 回反復された頃有性生殖が始まる。即ちメロゾイトの成母が雄雌の配偶體となる(D)。雄雌配偶體は後分裂を繰返して多数の核となつて表面に並び、後分裂して配偶體となる(G, H, I)。この配偶體は頸状をなし、2本の鞭毛を有する。雌雄配偶體は柱状の一部を放出し、1個の大きい球形の配偶體となる(E, F)。雌雄配偶體は栄養物に富み、受精後後期を分岐してオオキスト(K—Q)となる。オオキストの中からは2回分裂して4個となり、やがて4個の腸子が形成される(N, O, P)。腸子は並列形で内容は1回分裂して2個の長いスゴロゾイトを産するに至る。

アウイ Haüy, l'abbé René-Just (1743—1822) フランス人。初期結晶世界の組織。結晶學に關する基礎知識の発見は彼によるものが多く、其の著 *Essai d'une Théorie sur la Structure de Crystaux* (1784) に於て既に結晶に於ける對稱型の數種を記載してゐる。又有理指數の法則は彼の発見にかゝり、鹽々の形體の分解に於ける空間は何れも圓周に沿つて起ることを発見し、今日の結晶の格子構造説に似た意見を發表した。

アヴェナナツイ——單位 *Avena unit*, (西) *Avena Einheit* 【アヴェナ單位】植物の生長素の量を示す單位で、ヴェント Went によつて定められたものである。カラスムギの甲折の欠損を切り取り、その上に測定すべき生長素の液を吸収せしめた寒天の薄片を一圓に片寄せて載せると、生長素は其の間に流下して根莖伸長を起すので、結局甲折は寒天薄片を横切つた間と反対の方向に曲つて生長する。其の屈曲角度が溫度 22°C、湿度 90% の下で、1 時間に 10 度であるとき、其の寒天中に含まれる生長素を 1 單位とするのである。アヴェナ *Avena* はカラスムギであるから、これは又「カラスムギ單位」ともいふ。ドイツ語の *Avena Einheit* を略して A. E. と書くことがあつた。

アウカドバアー *Persea gratissima* Gaertn. f.

Fruct. 【ワニナシ】熱帯アメリカ原産。タヌ科の常緑喬木。高さ約 7—20m。葉は互生し、長橢圓形或は披針形等で裏面は灰白色を呈する。花は帯紫色で枝端に近い腋生の輪狀花序に排列する。果實は大きく青緑球形或は長橢圓形等。暗紫色・紫色・濃紅色・灰色等を呈する。品種に依り、果實の色澤・成熟期或は樹形・葉形等を異にし、果實を植物性バターと稱して食用に供する。

アウキシン Auxine 植物體の生長即ちその容積の増大には細胞数の増加を必要とするが、細胞分裂それ自身だけでは殆ど容積の増加なく、分裂後に於ける新細胞の伸長によつて始めて生長が認められる。この細胞長の伸長に作用する特殊なホルモンの物質を生長素 Wuchststoff 或は生長ホルモン Wachshormon と呼ぶ。アウキシンは生長素の一種で、生長點の部分に遊離の状態で存在し、新細胞の細胞伸長を司る。種々の異なる種類の植物によつて形成されるアウキシンはすべて全く同一で、種類による特殊性は無い。又これは人間・高等高等動物の尿中に多量に存在するけれども、これが動物の生活作用に對して何等かの役割をなすものか否かは全く不明である。アウキシンは尿及び植物性油から純粋な結晶として得られ、化學組成は $C_{10}H_{12}O_2$ で、その 50 倍分の 1g の量で生長に作用がある。アウキシンは茎の伸長を促進するが、根の伸長は逆にこれによつて抑制される。向地性・向光性等の植物の屈曲運動は重力や光が一方的に作用して刺激部の兩側に於ける細胞伸長の程度を不平等ならしめる爲に起る現象であるが、現在ではアウキシンの分布状態が重力や光によつて左右される爲に生長の不平等が現れるものと考へられてゐる。茎と根の生長運動に對して重力や光の影響が逆であることは、アウキシンが茎と根の生長に反対に作用する事實から容易に了解される。最近バティンドール・監製せる物質にもアウキシンと同様の作用あることが發見され、ヘマロアウキシンと名附けられた。尿中に存在し、また化學的に合成して得ることが出来る。

アエン 亜鉛 Zinc 化學記號 Zn, 原子番號 30, 原子量 65.38 のマグネシウム族所屬の元素。自然界には單體の状態で存在しない。硫化物(閃亜鉛礦)・硫化物(紅亜鉛・フランクライン)・炭酸鹽(菱亜鉛礦)・硫酸鹽(菱亞鉛礦・異極礦)等として産出するが、雜石として重要なものは閃亜鉛礦・菱亞鉛礦及び異極礦である。閃亜鉛礦を空氣中で焙いて酸化亜鉛とし、之を炭素を混じて粘土製のレトルトに入れて高温下で得られる。青白色の脆い金屬で、比重約 7.4, 融點 419.44°C, 沸點 907°C, 100°C 以上に加熱すれば屈性・延性を有するに至り、薄板・針金等に製し得るが、200—300°C の間に於ては再び脆弱となる。通常空氣中で、速にその表面に酸化亜鉛を生成し、更に徐々に鹽基性炭酸鹽に變じて、その内部を保護する。防銹の目的で清淨な鐵板を被覆し、所謂亜鉛被覆として、諸般の工事に用ひられ、或は合金の製造原料、電池の製造に供される。

アエンカ 亜鉛華 Zinc white 酸化亜鉛の俗稱。*【酸化亜鉛】

アエンコウ 亜鉛礦 Zinc ore 亜鉛を有利に採取し得る雜石をいふ。閃亜鉛礦・異極礦・菱亞鉛礦・フランクライン・紅亜鉛礦・菱亞鉛礦等がある。最近の 3 者は北アメリカ合衆國ニュージャーシー州のみに産する。本邦では主に閃亜鉛礦を産する。

アエンコウショウ 亜鉛礦床 Zinc ore deposit 亜鉛礦は雜石と共生し易く、殆ど常に同一雜石を構成し、鉛亜鉛礦床と呼ばれる。*【鉛亜鉛礦床】

アエンバク 亜鉛白 Zinc white 酸化亜鉛の俗稱。*【酸化亜鉛】

アオイ 葵 昔はクマノスズクサ科のフタバアオイをいつたもので、徳川家の家の紋は之に因つてゐる。然るに今日ではゼニアオイ科に屬する宿根草を總稱する俗稱となつてゐる。有用植物が多く、蠟燭用・藥用・油用・香油料・燃料・食用・觀賞用

等に使われてゐるものが多い。例、ゼニアオイ・タチアオイ・トモアオイ・ミナアオイ・キアオイ(各項参照)。

アオイ科 染料 = 「ゼニアオイ」

アオイシ 青石 青色(緑色)を呈する岩石の種類。一般には結晶片岩・輝岩等の結晶片岩類を指すが、時には是等以外の青色岩石を云ふこともある。特に結晶片岩類の青石はその自然光が顕著あるを以て磨石等として利用されることが多い。青石は各地に分布するが、關東地方では浅父青石、關西地方では徳島縣名西郡浦生村東山・阿蘇郡那珂川町城山及び愛媛縣等から産出するものが有名である。

アオウキクサ 青萍 *Lemna paucicostata* Hegelm 湖沼の淡水に浮生するウキ草科の一年生草本。葉は扁平葉状で緑色を呈し、不整齊な側縁形成は長倒卵形等下面に1本の根を生ずる。夏秋の頃葉間に小さな白色の花を咲ける。

アオウミガメ 青海龜・綠蠟龜 *Chelonia japonica* Thunb. 【正愛珍・赤海龜】 爬蟲綱・龜目に属する大型のウミガメ。體は暗緑色に暗黄色の斑點あり、背甲中央部5、中央側板5、縁板25。腹甲は扁平で13板。初夏海邊砂中に50-170個の卵を産む。熱帯・亞熱帯の海に棲み、本邦では臺灣・沖縄・小笠原等に分布し、時に伊豆・千葉の海岸等に来る。肉及び卵は食用、腹甲は石鹼原料、甲は漆甲の代用品となる。

アオガエル 青蛙 *Rhacophorus viridis* Hallowell 兩栖綱・無尾目・アオガエル科の一種。奄美大島以南、臺灣に至る間に棲息し、東洋區系種に属するものである。本州に棲息するシュレーゲルアオガエルに似て、體背面は一様に青緑色、腹面は白色を呈し、その境に乳白色線が僅か腹部後方に沿ひ存在する。鼓膜大きく、物陰は發達し、各指趾先端には長く發達する鼓膜がある。又趾間には蹼がある。大型の側眼には暗褐色の雲斑状がある。3-4月頃水田の畔の土中又は



アオガエル

は水邊に近き石垣等に、白い泡状の卵塊を産みつける。卵は乳白色で、指1大きく、卵殻が相當に成長した後水中に浮出する。この種に近きものは、體で白い泡状の卵塊を産むのが特徴である。*【モリアオガエル・シュレーゲルアオガエル】

アオカズラ 青葛科 *Sabiaceae* 【清風藤科・密吹科】 雙子葉・離瓣花類の科。木本又は草本。花は小さく雄蕊又は雄蕊状をなし、萼は2-5枚、花瓣は4-5枚、雄蕊は5本あつて花冠と相對する。雄蕊は2-3枚の心皮よりなり、核果を生じ、種子を散ず。無帶・腺帯に約70種ある。

アオカビ 青黴 *Penicillium expansum* Link. 眞正菌子菌綱・不整菌子菌綱・カウザカビ科の絲狀の菌類で、腐敗した有機物、例へば果實・パン・餅・蜜等に寄生し、成熟すれば青色の分生胞子を生ずるので、絲狀體は白色であるが青色に見える。

アオレヒョウ 青枯病 →【ナス・ジャガイモ・アオレヒョウ】

アオイ 桃葉珊瑚 *Aucuba japonica* Thunb. 【アザミ】 各地の山野に自生するミヅキ科の常緑灌木。高さ約2m内外、葉は對生し、輪狀披針形或は披針狀倒卵形等で長さ約5-18cmに及び、葉縁には鋸齒がある。花は單性花で雄雄異株。4月頃頭生の圓錐花序に内面紫黑色を呈する4-7個の花を咲ける。核果は廣倒卵形で12月頃成熟して紅くなる。材で管・紋等を作り、葉の搾取は傷を治し、乾葉は粉にして油と混ぜ湯

火傷に塗布すれば效があるといふ。廣く觀賞用として栽培する。本種の品種には、花梗が黒褐色を帯びるタロニアブナ、花が緑色を呈するウストビ



アオイ

アサキ。花が淡紫色を呈するアマノアサキ等がある。

アオキコンヨウ 青木昆陽 (1198-1769) 名は教、通稱文龍。甘藷生手の名で知られてゐる。我が國最初の蘭學者で、將軍吉宗の命により長崎に學び、甘藷の有益な作物であることに注意し、「蘭語記」を著し、幕命により薩摩から甘藷の種を販賣せ、小石川養生所(今の小石川植物園)に試作した。これから甘藷が關東諸國に廣まつた。

アオギリ 梧桐・青桐 *Firmiana platanifolia* Schott & Endl. 九州・臺灣の山地に自生することもあるアブラキ科の落葉喬木。樹皮は常に紫色を呈する。葉は互生し、大型で廣な掌狀に3中裂し、裏面に毛を散生する。6-7月頃黄緑色の單性花を雌雄同株に著け、果實は莢状で成熟すれば裂開して果熟部の邊縁に種子を露ける。材が電材・下駄材とし、樹皮の纖維は紙の代用とする外、樹皮は製紙の膠として用ひる；又街路樹・庭陰樹・庭園樹等として廣く栽培されてゐる。

アオギリカ 梧桐科 *Sterculiaceae* 【ボクゴ科】 雙子葉・離瓣花類の科。木本又は草本。花は多数重つて種々花序をなし、單生又は兩性。萼は5枚あつて紙質してゐる。花瓣は5枚ある又は缺く。雄蕊は2層に重ぶ、雄蕊は5枚の心皮よりなり1-5室。果實は分果。暖帯に約600種を産する。

アオクサカメムシ 青臭龜蝨 *Nezara antennata* Scott 【アツカマダノ】 節足動物・昆蟲綱・有翅目の一種。體長15mm程で全體鮮綠色、時に淡褐色を帯びる個體がある。口吻の末端短く、後胸部に微小の褐色點があり、前翅翅脈は透明。本邦各地に普通で害業で、果樹や蔬菜に被害することがある。

アオケラ 綠啄木鳥 *Picus axonotus axonotus* Temminck 鳥綱・啄木鳥目の一種。雄は頭頂から上顎にかけて鮮紅色、喉嚨は鮮紅色と黒色より成る。背面はオリーブ綠色、雄・上尾尾は對稱が白色。翼は黄褐色で翼切羽は黒色を帯び白線を有する。尾は黒味を帯びた褐色、或は白く、以下の下面は黄白色。雌は頭部に赤色部を缺く。後頸と上顎に赤斑を有する。本邦の特有種で、山林中に棲息し、木を登りながら昆蟲を啄き食する。本種に類似する種にタネアザケラ *P. a. takatsukae*



アオケラ

Kuroda (種子島・屋久島)・カゴシマツグク *P. a. horii* Takatsukae (四國・九州)がある。

アオサ 石蓴 *Ulva pertusa* Kjellm. 【アサツキ】 各地の海岸の岩石に増生するアサツキ科の植物。體は葉状で基部は細く、普通體面に小孔があつて紫色を呈する。動物性の發芽に依つて出来る配偶體植物と造胞體植物とあるが、兩者は良く似てゐるので肉眼的には區別が出来ない。本種はアサツキに似てゐるが、基部は筒状でなく、又乾後變色するから容易に區別出来る。根の類似種があり乾燥し香料として食用に供する。

アオサギ 蒼鶺鴒 *Ardea cinerea rectirostris* Gould 鳥綱・鶺鴒目の一種。頭頂は白色で、頭部・後頸は黒色。上顎に2枚の細長い羽を有し、背面・尾羽共に淡灰紫色。下顎の基部に

雌雄の白色の鱗片があり、頭部も褐色、胸・腹・下腹部は白色で、鰓・鰓裂部は黒色を呈する。北海道・本州・四国・朝鮮で普通に見え、本邦各地に分布する。平潮時には大津波に來て小魚を捕食し、満潮時には泳ぎ廻り、又水面等に降りる。

アオサメ 青鮫 *Isuropsis glauca* Müller & Henle 魚綱・軟骨魚類・エイ目・サメ科の一種。體長 6-10mに達する大型の魚で、熱帯の海に産するが、日本近海では北海道沿岸に産する。東北地方で「オウササメ」、関西地方では「モロサメ」と云ふ。體面は黒色で、腹面は白色又は淡灰色を呈する。第一背鰭は胸鰭と腹鰭との中央に存在し、首は長く先端尖る。

アオシキ 青鵒 *Capella solitaria* (Hodgson) 鳥綱・繭目の一種。マヤンゴと類似した小形の鳥。背面は暗褐色で不規則な赤褐色と白色の斑紋がある。頭・喉は不明瞭な灰白色。喉及び上咽は褐色で、腹は白色を呈する。本邦に廣く分布するが、数は少く主に山地の溪谷に繁殖して見られる。

アオゾムカチ 青頭蜈蚣 *Scotopendra japonica* L. Koch 節足動物・多足類・蜈蚣目の一種。體長 60mm 内外。頭部及び脚の背面に暗褐色を呈し、下面は黄褐色である。脚節は伸長し、先端に三つに尖る。本州・四国・九州・對馬・琉球等に分布する。

アオダイショウ 青大將 *Elaphe climacophara* Boie 【高脚蛇】 爬虫綱・蛇目・毒蛇科の一種。北は北海道から南は九州に至る地方に廣く産し、體長 2m 以上に達するものがある。體背面は淡茶褐色で、縦横に不規則な褐色斑紋が 2-4 條現れるものもある。幼生時代にはこの斑紋が著しく顯著に見える。シロヘビとして珍重されるものは、本種の子で、山口縣では天然記念物に指定されている。

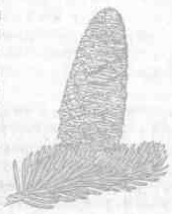
アオタテハモドキ 青擬蛭蝶 *Junonia orithya* L. 節足動物・昆蟲綱・鱗翅目の一種。臺灣・琉球に多く普通の蝶。雄の前翅の内縁は黒色、外縁には 2 個の斑があり、後翅は大部分青灰色、外縁には同じく 2 個の斑を呈する。雌は雄より大膽で前後翅の斑紋が顯著である。

アオツラフジ 木防已 *Cocculus trilobus* DC. 【ツラフジ】 各地の山野に自生するツツクワ科の多年生蔓草。木で蔓性で纏繞する。葉は互生し、卵形で長 3 浸透。花は草花で雄雌異株、夏に淡紫色の小さな鐘花を腋生の聚繖花序に著け、花後成熟すれば暗紫色を呈する小さな球形の漿果を結ぶ。葉で薬用等を製する。

アオツラフジ科 木防已科 *Menispermaceae* 【ツツクワ科】 双子葉・繖形花序の科。藤本又は木本。花は小さく聚繖状・頭状・穂状をなし、萼・花瓣・雄蕊は普通 2-3 個づつで各々 2 層に列ぶ。雄蕊は 1 乃至多数の心皮よりなり、花後漿果を結ぶ。漿果に約 20 種を産し薬用となるものもある。果實は有毒である。

アオトマツ 青杉 *Abies Mayriana* Miyabe & Kudo 【アオトマツ・トマツ】 北海道・千島・樺太等の山地に自生するマツ科の常緑樹木。小枝に暗緑色又は黒灰色の鱗を密着する。葉は針状で線状、長さ約 3cm、花は單性花で雄雄同株にありて 5-6 月頃開く。雄果は圓錐形で頭部等で長さ約 4-5cm、材を建築材・パルプ材等に供する。

アオノツガサクラ *Phyllocladus alantica* A. A. Heller 【オノツガサクラ・オノツガサクラ】 本州中北部の高山、北海道・平野の山地等に自生するソウダサクラ科の常



アオトマツ

緑小灌木。高さ約 12-30cm、葉は線形で密生し、葉縁は外縁して細鋸歯を具へる。7-8 月頃開花する。雄花序に淡白色の雄花を著け、花後圓錐形の果実を結ぶ。

アオノリ 青海苔・海苔 *Enteromorpha linza* (L.) J. Ag. 【ノベアサガサ】 各地の海岸特に淡水の注ぐ處及び純淡水中にも繁殖するアサガサ科の緑藻。體は平打の巨状で、1 層の細胞から成り高部は圓筒状で鮮緑色を呈する。動物性の養分を依つて出来る配列細胞と造植物細胞の別があるが、同形で肉眼的には區別が出来ない。乾燥して食用に供する。

アオバズク 綠葉鳥 *Ninox scutulata scutulata* (Raffles) 鳥綱・繭翅目の一種。上面は濃いチョコレート褐色で、面・頸は一層暗色を帯びる。尾は灰褐色で、黒色の帯を有し、下面の地色は白色でチョコレート褐色の太い散斑がある。本邦各地で普通に見え、冬間はマレー・諸島地方に渡る。4-5 月頃内地に渡來してノコノコと鳴く。

アオハダトソバ 青肌蜻蛉 *Calopteryx virgo* L. 節足動物・昆蟲綱・蜻蛉目に属するカハダソバの一種。體長 50 mm 内外。體は緑色、金屬光澤が強い。雄の前翅は藍色の反折を有する黒色を呈し、斑紋がない。雌の前翅は淡褐色で、前縁は褐色が濃く、色彩のみからなる白色の斑紋が發達してゐる。本州・ヨーロッパに分布。

アオバト 綠鳩 *Sphenocercus sieboldii sieboldii* (Temminck) 鳥綱・鳩形目の一種。雌雄異色で、雄の頸は黄褐色、背面はオリーブ緑色、背・胸は黄褐色を呈する。大羽翼はオリーブ色で淡黄色の細線があり、中・小羽翼は葡萄赤色。翼切はスレート色で淡黄色の線を有する。中央尾羽はオリーブ緑色、喉・前頸・背は黄褐色で羽以下は乳白色を呈する。雌は綠色に富み、前翼と葡萄赤色が無い。本種は本邦特種で北海道・本州に産し、四国・九州・對馬等に分布する。臺灣には本亞種に類似するグイワンアオバト *S. s. guianensis* Swinhoe を産する。本邦産アオバト *S. s. permagnus* permagnus (Stejneger) (許地長) の他をも含む。



アオバト 8

アオハブ 青竹絲・青飯匙倩 *Trimeresurus gramineus* Shaw 爬虫綱・蛇目・マムシ科の一種。臺灣に廣く分布し、本種の變種等に多く、樹上又は地上を加ふ。出血毒を有する毒蛇で、最も害毒のものであるが、死亡率は極めて低い。體背面は緑色で、尾端褐色又は紅褐色、腹面は淡褐色又は白色、側面は黄褐色で體節により白色又は赤色の細線状斑紋をもつ。

アオハンミョウ 莖苔 *Lytta vesicatoria* 節足動物・昆蟲綱・鞘翅目の一種。ツチハネムシの一種でヨーロッパに産する。皮膚につける發泡劑として用いられてゐるカンタリジン Cantharidin は本種を乾燥粉末として製造される。

アオヘビ *Liopeltis major* Guenther 爬虫綱・蛇目・毒蛇科の一種。臺灣全土に廣く産し、從來有毒のアオハブをこの名で呼んでゐたが、改めて無毒なる緑色の種に此の名を附けた。

アオミドロ *Spirogyra* 複合藻類・ホニエ科・アオミドロ属の緑藻。緑色絲狀の植物で湖沼の淡水に生じ、細葉の繖形を含む。之を乾燥して見ると縦柱状に細胞が 1 列に連なり、内に細い帶狀の氣球體が 1 乃至數本螺旋狀に捲いてゐる。繁殖は

場合に依つて接合子を作り、之が発芽すれば本體となり、又細胞の分裂及び組織の分離等に依つて多量葉が行はれる。原形質分離や主體染色等の実験材料として用ひられる。

アオヤギソウ 青柳草 *Veratrum Maximowiczii* Back. 各地の山地に自生するニリ科の多年生草本で、茎の上部に短毛を布き、高さ約 30—100cm。葉は互生し、披針形等で平行脈を具へる。春日小さな緑色の花を圓錐状の穂状花序に結ぶ。有毒植物として知られてゐる。

アオリカ *Sepioteuthis lessoniana* Férussac 軟体動物・頭足類の一種。九州に最も普通な大型のイカで、春期産卵のために海岸近く来る。胴は細錐形、胴縁に狭い大きな鰓が着いてゐる。主として生のまま食用に供する。九州ではミヅイロといふ。

アカ (1) 垢 *Smut* 皮膚の表面に附着して居る角化した表皮細胞・汗・皮脂及び菌類等の複合物である。表皮細胞は其の基下層で絶えず増殖し、上層のものは漸次枯死を共に角化する。皮膚の表面に分布された汗・皮脂等は菌類・細菌等の増殖を促す爲に放置すれば結核菌が繁殖する。垢がたまると皮膚の機能(呼吸・分泌等)が障碍され、又垢の化学的刺激及びその中に含まれる病原性微生物の爲に皮膚病及び其の他の疾患を發生せしめらる。

アカ (2) 亞科 *Subfamily* 科と屬との中間に位する分類の一階段である。科中或特殊の種を重んずる場合に亞科を設ける。

例 (動物)。
 人形科 *Simiidae* { 手長猿亞科 *Hylobatinae*
 手長猿屬 *Hylobates*
 類人猿亞科 *Simiinae*
 猿 *A. Simia*
 黑猩猩 *Anthropopithecus*
 大猩猩 *Gorilla*

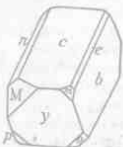
以上の如く亞科名には語尾に *-inae* を附ける。

例 (植物)。
 マメ科 *Leguminosae* { キムロキ亞科 *Mimosoideae*
 ジャケツイバラ亞科
 Caesalpinioideae
 胡蝶在亞科 *Papilionatae*

アカイサンミヤク 赤石山脈 富士川と天龍川との間に横し、長野・山梨・静岡の縣境をなす山脈。東及び北は赤川川一帯の間に横し、西は中央構造線によつて境されてゐる。輪郭は環形をなす大地塊山脈である。一名日本南アルプスと稱され、赤石岳(3030m)・穂高(3011m)・駒ヶ岳(2865m)等、3000m内外の高峰が聳立する。地質は山脈の中央部は古生層より成り、其の両側に結晶片岩及び片麻岩が南北に帯状に並ぶ。又東側には第三紀層の礫層が露出している。

アカイタボヤ 赤板海鞘 *Botrylloides aurantium* Oka. 原形動物・被囊綱・海鞘目の一様。板海鞘の一種で、葉生によつて扁平な群體をつくる。橙黄色を呈し、個體は卵形である。本州・四国・九州の沿岸に普通に産する。

アカイチウセキ 亜灰長石 *Bytownite* 【灰長石】 青長石分子と灰長石分子との混合比が 3:1乃至 10:90に達する間の成分をいふ。三斜晶系に属し、劈開は {001} 及び {010} に完全、硬度 5—6、比重 2.73—2.75、無色・白色又は灰色で玻璃光澤を有し、透明乃至半透明、條痕は白色、光學性：負、 $\alpha=1.561$ 、 $\beta=1.564$ 、 $\gamma=1.569$ 、 $\gamma-\alpha=0.008$ 、分散は $\rho>1$ 、光軸角 $2V=79^{\circ}-84^{\circ}$ 。斑状性火成岩中に含まれ、又その良結晶は若干種の手山・宮城縣三ツ瀧等に産する。



亜灰長石の結晶

アカウニ 赤海膽 *Pseudocentrotus depressus* (A. Agassiz) 棘皮動物・海膽綱・在形目の一様。ムラサキウニに類似する。殻は筒形で鮮紅色。腹は陥没し易く彩色を呈する。本州中部から九州に分布する普通種である。

アカウミガメ 赤海龜 *Caretta olivacea* Escholtz. 爬虫綱・龜目・海龜科の一様。暖海に棲息する。本邦近海では太平洋岸に棲み、南洋・臺灣・琉球・小笠原近海に多い。産卵期は6—7月頃で、産卵場と同じく海岸の砂上に穴を掘り、その中に産卵する。背甲の地色は黄褐色に不規則な暗褐色の雲状斑がある。腹甲は乳白色。側腹腹面は暗褐色を呈し、腹面は乳白色。背甲及び腹面を利用する。

アカエビ 赤蝦 *Dasyatis akabei* Müller & Henle 魚綱・軟骨魚類・アカニシ科の一様。體は扁平、心鰓を呈し、尾は長く細鞭を呈し、その背面に 1—3 箇の棘がある。これに棘を被る二脊を被る。一様の防禦器官である。背鰭及び尾鰭はない。腹鰭の二體の棘を産出し、それを動かして清浄する。體色背面は一様に暗褐色でその縁は黃色を呈する。夏期胎生、食用となる。

アカエリヒレアシシギ 赤襟鰯足鰯 *Lobipes lobatus* (L.) 鳥綱・鰯目の一様。雄の夏羽は背肩スレート灰色で、鼻に褐色の縦帯がある。下背・腰はスレート灰色で、大雨覆には白帯を有する。喉・嘴は白色で下喉は鮮やかな赤褐色を呈する。肩・腹は白色で、翅に灰色縦帯がある。多羽は背面が淡灰色で、3 枚の白色を呈し、他はすべて白色。ヨーロッパ・北アメリカの北部で繁殖し、冬期には南方に渡る。本邦各地に知られ、沿岸の海上に見られる。

アカギ 赤貝 *Anadara inflata* (Reeve) 軟体動物・斧足類の一様。肉は赤味を帯びて美味。殻に浸して生食し、或は醤油の上に載せて食べる。

アカガエル 赤蛙 →「ヒメアカガエル」

アカガシ 赤樫 *Quercus acuta* Thunb. 【カシ・オカシ】 本州中部以南の暖地に

自生する堅果科の常緑喬木で、若い枝葉には赤褐色の毛を密生する。高さ約 15m 内外。葉は互生し、卵形或は長橢圓形等縁々で全縁或は鋸。波状鋸縁。花は單性花で雌雄同株。5 月頃・雄花序に着き、雄花は繖房形成は個體狀繖房等で長さ約 2cm。木材材木・下駄板・船具・農具・薪炭等に供する。



アカガシ

アカガネコウザン 赤金鑛山 兵庫県淡路郡常陸村にある。地質は中生代の新板岩・切替炭灰岩及び之を貫く軟岩安山岩よりなる。産出は粘板岩・凝灰岩の裂隙を充填する鐵礦であつて、鐵石は主に黄鐵礦・磁鐵礦及び輝鐵礦である。本鑛山の産出は大同年間又はそれ以前であると云ふ。現在は鐵・銅を産出する。

アカガシ 赤城山 群馬縣の東部に位置し、火山錐形の標式的成層火山。山頂に時、噴霧の噴火口があり、更にその中に地盤(1482m)の中央火口がある。外輪山との間に大沼と呼ぶ火口湖があり、又東南側に小沼といふ火口がある。外輪山は内輪は極めて急峻で外輪は緩やかな傾斜をなしてゐる。山頂は輝石安山岩で構成され、第二次的の生じた地盤の火口、小沼の火口は内陸安山岩に属する。火山活動が頻りに及ぶので、樹木がよく繁茂し、樹野は数度に被られてゐる。



高崎の西南、利根川河原より東北に赤城山を望む

アカキツネ 赤狐 *Vulpes vulpes japonicus* Gray
哺乳綱・食肉目・犬科に属する狐の一種。アカキツネには多数の亜種があるが、我が國の狐もその一種で九州以北の地に棲息する。内地産の種別をヤギツネと稱し、即ち太平洋産のものを「キタギツネ」及び「シナギツネ」と稱する。赤狐には毛色の變化があり、所謂灰色のものから純黒色のものに至るまで大體次の種の色相がある。【赤狐】普通全身暗赤褐色の所謂狐色であるが、足と耳とに黒色状があり、背部と臀部とに端の白い毛がある。【十字狐】十字の赤狐について普通なる種別、後肢の下部は黒く、頸と顔面は赤色で、頸羽及び背部は黒褐色を呈する。即ち背面に黒い十字形の斑を呈するのでこの名がある。【銀狐】全身黒く赤色部なく並毛(主に下背及び腰部)には赤端に近く銀白色部がある。これが爲め全體が黒地に銀白色の横白の様に見える。【黒狐】全身淡黒色を呈し、たまに尾端のみ白色である。本種はその数最も少く、向尾端の白色部は他のものにもあるが、黒狐で特に顯著である。勿論以上述べた色相の區別は單に赤狐の一種類中の色相の變化に過ぎないから、従つて以上4通りの區別も實際とするものでなく、中間型のものがある。我が國の狐は内地産のものに主として赤狐のみで、十字狐と稱するに足るほど黒味を帯びたものもないが、千島及び樺太には上記各相のものが棲息する。千島の狐は世界的要品として取扱はれてゐる。

アカギレ 蜂裂 ヒビの類 大きなもの。前、多刺のみに棲息する一種の蜂と考へられて居り、手指・足趾等が好發部位とする。その原因には草なる毒物のみでなく樹木の刺激即ち刺・刺蟻等の刺、塵埃等も例つてある。表皮は乾燥肥厚して強け腐爛し易く、其度には多少の充血・浸潤を來す。皮膚の潰瘍・ダシ等と水・バネツ水等の諸病、ワセリン・軟膏等の塗抹は療效及び治癒に有効である。

アカガメ 赤鰐 *Ursus arctos collaris* Cuvier
哺乳綱・食肉目・熊科の一種。標本・カムチャツカ・シベリア・北ヨーロッパ・北アメリカ等に分布。體は淡褐色。四肢は粗く黒味を帯び、ヒダ等より大きく、耳は丸形で小さく、尾も短い。北海道産のヒダは別様。尚ほ食用、毛は長く粗で敷物用。

アカライオウヤマ 赤倉硫黄山 秋田縣北秋田郡山根村にある硫黄山。本嶺山の西北に近く田代岳・鳥帽子岳等の火山がある。地質は安山岩を基盤とし、第三紀の凝灰岩・火山灰が之を覆ふ。硫黄は凝灰岩中に存し、之を交代したものの穴大塊をなしてゐる。硫黄の硫黄含量は60%以下、平均20%である。明治30年頃に発見された。

アカクラゲ 赤水母 *Dactylometra pacifica* Goette
腔腸動物・刺胞綱・雲口目の一属。外傘上に16—23本の赤褐色の縁刺を有する(稀に縁刺なきものもある)。縁片は48箇に分れ、8箇の成強部と40本の觸手を有する(大形のものは56本の觸手あり)。口裂は4本でより發達する。本種は本邦近海に普通で、觸手は鋭い毒を持ち、漁夫に刺れてゐる。

アカゲザル *Macaca shesha* 哺乳綱・猴類綱の一種。インドの北部及び南部に互り、主に山地に棲息する。多量群をなして猿類及び類を飼育する。

アカゲラ 赤啄木鳥 *Dryobates major hondoensis* Kuroda 鳥綱・啄木鳥目の一属。背面は黒色で、後頸に鮮紅色の斑を有し、顔は淡い赤褐色。下嘴の基部から耳下下に及ぶ部分と頸部に黒色の條がある。下面は淡い赤褐色又は褐色で下腹

と下腹尾は紅色である。尾羽は中央の2枚が黒色で、外側のものは黒白の横斑を有する。翼羽は黒色で、白色の横斑がある。雄は後頸に赤色斑を缺く。本州北部・中部・朝鮮に分布する。本種に類似する本邦種は次のものである。エゾアカゲラ *D. m. japonicus* (Seebach) (南千島・北海道・北部本州)・キタアカゲラ *D. m. tscherkii* (Buturlin) (樺太)等。

アカザ 菜 *Chenopodium album* L. var. *centrorubrum* Makino

各地の原野に自生するアカザ科の一年生草本で根葉は赤色を呈する。高さ約2m内外。葉は互生し、三角状卵形で全縁のもの数枚縁鋸歯縁のものもある。花は黄緑色の無瓣花で穂状花序に着き秋咲く。葉を食用とし、本種の葉は枝にする。又生葉の煎汁は毒蟲の刺傷或は虫歯等に效がある。



アカザ 赤坂 岐阜縣

アカザ

不破郡の赤坂、大垣の西北方5kmに位置する町。町の北方にある金山は赤坂大理石の産地として有名。又此の石灰岩には枕文系の化石を多量に、方解石の産地としても知られる。

アカザ科 菜科 *Chenopodiaceae* 鹽子菜・鹽漬花類の科。草本又は灌木。葉は葉脈で互生。花は単性又は両性で小さく、集つて生じ、花被は3—5枚輪に1枚のものもある。雄蕊は花被と同数。子房は上位で1室よりなる。花後堅果又は漿果を結ぶ。廣く各地に分布し約500種を含む。

アカサビビョウ 赤錆病 ①小麦の赤錆病 *Brown rust of wheat* = 頑固病は銹菌類の *Puccinia triticea*。穂病とも云ふ。初め夏型子実が葉・葉鞘・莖・穂等に長圓形の赤褐色又は黄褐色の病斑として現れ、後に多胞子堆が茶色斑としてこれ等に混じて現れる。中間寄主はアカキアラツである。葉面側の赤錆病 *Rust of wheat on leaf surface* = 頑固病は *Puccinia Allii*。最初に茶白色小斑點が葉や花被に現れ、中央部には夏胞子堆を生じて橙褐色を呈し、後にこれ等に混じて暗褐色の多胞子堆が現れ、葉は黄變して枯死する。両リゴの赤錆病は赤星病とも云ふ。防除法等は赤星病に同じ。②「錆病」

アカサンゴ 珊瑚綱 *Corallium japonicum* Kishinouye 腔腸動物・花蟲綱・八射珊瑚亞綱・ヤギ目の一属。群體は樹枝状をなして、密に分枝する。外皮は薄く其の表面は微細な突起で覆はれる。

普通暗赤色を呈する。小枝の先端に近づくに従つて色が淡くなる。骨髄は通常暗褐色で中央部は白色である。雌は堅く質密で細工物に用ひられるが、裝飾品としてはマゼイロサンゴ程上等でない。重量2.6kgに達するものがある。九州の西南



アカサンゴ

海から土佐近海に分布し、土佐で多く採集せられる。五島近海から取れるバケ。土佐近海から産するケンペイと云ふものは色が淡くて美麗である。③「白珊瑚」

アガシー (1) Agassiz, Alexander (1835—1910) アメリカの動物學者。ルイジアナの子。ハーヴァード大學を卒業して、鐵山業で得た資金を動物學の發達に提供した。爬虫

動物・水母類・珊瑚類等を研究した。又アメリカ探検船グレート
アギス(2) Agassiz, Louis Jean Rodolphe (1807

—1873) アメリカの博物学者。スイスのベルン近くのモチュ
ーに生れ、チューリッヒの醫學校よりハイデルベルグ・ミュンヘン
に学び、後パリでキュヴィエ Cuvier, G. L. (1769—1832)
・フンボルト Humboldt, Alexander von (1769—1859) の感
化を受けた。1846年アメリカに移つて、ハーヴァード大學教授
となり比較動物博物館を興した。又マサチューセッツ州のベニ
キーズ島でアメリカ最初の海産調査を開いたり等して、海洋探
検並に教育・動物学の普及に努力した。化石魚類・淡水魚類等の
研究がある。ダーウィンの進化論には終生反対した。

アカシア *Acacia* マメ科・アカシア属植物の総稱。併し
我が國では普通ハリエンジュを當にアカシアと呼ぶ。「ハリエ
ンジュ」。

アカシオ 赤潮 Red water, Yellow water, Brown
water 【寄附】水が微生物のため赤色・黄色又は褐色を呈す
る時に色から見えて赤潮と云ふ。又緑の點から赤潮と稱する。赤潮
の原因となる微生物は主に原生動物と細菌類であつて、就中藻
類も藻類が主要なものである。本邦ではゴニオウラックス *Gonyaulax*・ギムノディニウム *Gymnodinium*・セラチウム *Cerati-
um*・ペリディニウム *Peridinium* 等が知られ、外國では繊毛虫
型のものも知られて居る。淡水に起る赤潮は東京府村山貯水池
で夏期にペリディニウムを主とする赤潮を生ずる事が知られて居
る。赤潮が出現すると、同時に陸上する他の生物が被害を受け
るか否かと云ふ問題は解つてゐない。その赤潮が主に浮遊類か
か構成されて居る時は被害は無く、他の類の場合では被害が多
く、特に海産の魚介類がその害を受ける事が大きい。それで真珠
養殖場では赤潮の発生を非常に恐れて居る。赤潮が他の生物を
致死せしめる原因に就いては化學的障害説と物理的障害説があ
る。化學的障害説と云ふのは微生物が急に多数生ずる爲に海水
中に酸素の缺乏を來して、他の生物を致死せしめる場合と、微生
物の死する際に複雑な腐敗質分解の結果、成種の有害物を發生
して他の生物の死を來すと云ふものである。物理的障害とは多数
の微生物が海中に發生する結果、海水は變質し粘着性を帯び
、他の生物の呼吸作用に障害を起しめると云ふのである。
特に魚介類の鰓は複雑な構造を有し、赤潮はそれに附着して呼
吸作用を妨げると云ふ考案である。

アカシダ 見風乾 *Carpinus laxiflora* Blume

【カシノキ・カシダ】各地の山
野に自生するカバノキ科の落葉
常木で、若い枝葉は赤色を呈す
。高さ約15m達。葉は互生し
卵形或は橢圓形等で細の重歯
を有する。花は單性花で雄花も
雄蕊と共に下懸性で同様に生じ
5月頃咲く。果實は果実で果
の苞内に着き多数果実で繖状に
なる。材を建築・家具・下敷・
曲木・薪炭等に供する。



アカシダ

アカシビョウ 赤波病

梨・栗等にも赤波病があるが、
被害の大なるは梨の赤波病
Mulberry rust で病原菌は銹
菌類の *Acididium Mori* である。葉・幼芽・幼梢に黄褐色の病
斑を生じ、後小粒點を密生し、小粒點から黄褐色の孢子飛散す
。防除法は葉果肥料の施用を避け、且被害部は速に除去して
果知する。

アカシマサシガメ 赤縞刺龜 *Haematoloecha ni-
grorufa* Stål 節足動物・昆蟲綱・有翅目の一類。體は黒色で

朱紅色の斑紋がある。頭部は黒色で菱形。前胸背は朱紅色で中
央部は黒い。中央に黒色十字形の斑紋がある。體の下面は黒色。翅は赤黒色。體長
12mm 程で本州・九州に産し朽木下・腐木
中によく見出される。アカシマサシガメと
云ふのは全然別種である。

アカスカタケ 赤頭蜈蚣 *Scolopendra
damnosa* L. Koch 節足動

物・多足綱・唇脚目の一類。大型蜈蚣で體長
8cm 程を算するものがある。全體褐色を帯
び、頭・胸角・顎は赤褐色、腹部背面は棕色。
腹面は褐色地の強い黄褐色である。脚が
18節からなり、歩脚は 21 対、跗節には 1
爪と 1 棘がある。有毒腺で、本州・四国・九
州に分布。

アカソ 赤麻 *Boehmeria tri-
cuspidata* Makino 本州中北部・北海道等の山地

に自生するイラクサ科の多年生草本で茎と葉柄には赤色を帯び
。高さ約 60—90cm。葉は對生し、卵形で不整な鋸齒を
具へ、先端は急尖状に伸びる。花は小さな淡紫色の單性花で腋
生の穂状花序の上部に雄花、下部に雌花を着ける。花期は夏。
茎の韌皮組織は麻絲と同様に用ひられる。

アカタ 赤材 Heart wood = 「アカシ」

アカタニ 赤壁蝨 *Tetranychus lintellarius* (L.)

【ハダニ】節足動物・蟻形綱・壁蝨目の一類。體長 0.55mm 内外。
楕圓形。水滴形をなし、背板は 1 横溝により前後に 2 分せられ、
表面には各 1 對をなした剛毛を有する。歩脚には 2 對の粘毛
と 4 分裂した特種爪とを有する。農作物について吸汁を吸収
する害蟲。

アカタニゴウザン 赤谷鐵山 新潟縣南蒲原郡赤谷村にある
鐵山。地質は古生代の石灰岩・粘板岩、之を貫く花崗岩及び更に
是等を貫く石英斑岩。是等を覆ふ石英斑岩面質頁岩よりなる。
鐵床は接觸變質鐵床に屬し、石灰岩と花崗岩との接觸部又は
之に近く花崗岩中に塊状をなして存在する。鐵石は主に雲母鐵
礦で、赤銅石・ペナルベルグ石を伴ひ、又黄鐵礦・菱鐵礦等の硫
化鐵物を産する。

アカタマ 赤玉【紅石】酸化鐵を含有するため赤色を呈す
る碧玉をいふ。新潟縣佐渡郡吾妻・石川縣國府野より産する。

アカツチ 赤土 Red earth 赤色を呈する土壌の俗稱。
即ち關東地方のロームの如きはその一例である。其の赤色は土
壤中に生じてある酸化鐵(主に褐鐵礦)による。

アカツメクサ *Trifolium pratense* L. f. *sativa* Ser.

【ムラサキツメクサ】ヨーロッパ原産。マメ科の多年生草本で
茎と葉には短毛を有く。高さ約 30—45cm。葉は互生し、破
断葉形或は倒卵形等の小葉から成る三出複葉で、葉面には白
色の斑紋がある。夏日赤色の蝶形花を頭状に着ける。各地に
栽培され、牧草或は飼料とする。

アカタケ 赤手蟹 *Sesarma haematodes* (de
Haan) 節足動物・甲殼綱・十脚目の一類。海岸に近い沼澤・

湿地に普通に見られ、側胸甲は緑褐色、腹部は紅色を帯びてゐ
るが、又全身紅色のものもある。甲長約 34mm、甲幅 33mm、
側縁は僅かに歪

り出して甲形
は略し四角形
を呈し、甲面
は平滑で僅に
前後に彎曲し、
背・心臓域の
溝は顯著であ
る。側縁前



アカタケ



アカゾムセダ

方には少なく、後方には甲面へ斜後方に向つて走る短い線が数多ある。額は左右の眼の間を走る縦線によつて甲面と隔てられて下直し、縦線は真直ぐに切断される。三脚は左右等大。雄の掌面は著しく幅広く、可動指は細くて彎曲し、不動指との間に深い間隙を生じ、先端に縦溝を形成してゐる。多脚は腕節以下に褐色の剛毛を生じてゐる。本種は東京以南の本州・九州・臺灣・朝鮮・支那沿岸に分布する。

アカテツ 赤鐵 *Sideroxylon ferrugineum* Hook. & Arn. 【クワナツ】九州以南の南岸に自生するアカテツ科の常緑小喬木。葉は互生し、倒卵形或は長橢圓形等で葉柄を具へ、表面に褐色の毛を密生する。花は白色で腋生に互生し、花被圓形の漿果を結ぶ。材が非常に硬いので建築材・器具材として用ゐられる。

アカテツカ 赤鐵科 *Sapotaceae* 雙子葉・合瓣花類の科。草木又は稀に灌木状をなし、葉は全縁で互生する。花は兩性又は單性。萼は4-8裂し、花筒は萼片と同数又は2倍ある。雄蕊は2-3輪をなし、子房は上位で数室よりなる。花後漿果を結ぶ。熱帯地方に約600種を産する。アカテツ・ダツバノキ等はこれに属する。

アカナシ 赤茄子 = 「トマト」

アカニシ 紅鯉 *Rafana thomasiensis* Crosse 軟體動物・腹足類の一種。肉は食用となり、卵黄はナガタホウズキと呼ばれる。

アカネ 茜草 *Rubia cordifolia* L. var. *Mungista* Miq. 各地の山野に自生するアカネ科の多年生草本で、

全株に下に向つた小形の刺を散生し、茎は圓筒形で中空。葉は卵状心臓形で4葉つて輪生する(2葉は托葉)。初夏の候淡紫色の5裂花を腋生或は頂生の葉腋花序に集める。漿果は球形で成熟すれば黒くなる。根は黄色でアリザンといふ配糖体を含み、著名な染料植物で、昔は赤色の染料を造つたが、今は化学的に合成されるものを使用するの安易と利用されない。又昔は薬用としても用いた。



アカネ

アカネカ 茜草科 *Rubiaceae* 雙子葉・合瓣花類の科。草木又は木本。葉は十字對生し、時に托葉が主要と同形に発達して輪生の假を呈する。花は繖房状又は繖房状に生じ、萼・花冠は4-5裂し、雄蕊は雄蕊片と同数、子房は下位で普通は2室よりなる。実質は乾實或は漿果。乾葉より香葉まで約450種を産する。

アカネズミ 赤鼠 *Apodemus speciosus* Temminck 哺乳綱・啮食目・ネズミ科の一種。體は體が大きく、尾は短く、鼠類を合せた長さより僅か短い。乳頭は胸部に2對、腹部に2-4對。夏冬兩期に於て體色が異なる。夏期には體の背面兩面は褐色褐色、背中央線附近及び頭部は僅かに淡灰色を呈する。腹面は白色。季節には體背面の毛の基部が濃い石板色で又腹面の毛の基部が淡石板色である外、他は白くなる。本州・四國・九州等に廣く分布し、往々群をなして移動する。

アカバナ 柳葉菜 *Epilobium pyrrhocolophum* Branch. & Sav. 各地の水邊・湿地等に自生するアカバナ科の多年生草本。高さ約30cm内外。葉は對生し、卵状披針形等で細脈を具へ、往々雲紫色を帯びる。夏目淡紅色の4輪花を頭頂に集め、花後葉を結び、成熟後葉開して上部に白色の長毛を具へた種子を散布する。

アカバナカ 柳葉菜科 *Oenotheraceae* 雙子葉・離弁

花類の草本。葉は托葉なく對生又は互生する。花は腋生に單生するか或は茎上に繖房に生じ、萼は2-4枚、花筒は2-4枚、雄蕊は花筒の倍數だけある。子房は下位で4枚の心皮よりなり、実質に多くの種子を蔵する。世界各地に廣く分布し、約500種ある。

アカバナクシラン 赤花君子蘭 *Clivia miniata* Regel 南アフリカ産。ヒガンバナ科の多年生草本で、地下に鱗茎を有し高さ約30-40cm。葉は劍状をなし、基部から約15-20葉を産する。花は鮮紅色の廣筒状で基部は黄色を呈し、約12-20個の雄蕊花序に著く。觀賞用として栽培する。

アカバナノムシヨケギク 赤花除蟲菊 *Chrysanthemum coccineum* Willd. 【アカバナノムシヨケギク】中央アジア産。キク科の多年生草本。高さ約30-60cm。葉は互生し、鋸歯有柄で葉裏は無毛。各葉片は羽状に分裂し、更に羽状に深裂して腋生は缺刻状に分裂する。夏目舌状花は紅色、筒状花は黄色を呈する頭状花を輪花に1個づつ着ける。花を乾燥し粉末にして驅蟲剤・蚊遣殺香等を製し、害蟲駆除にも使用する。又觀賞用として栽培する。

アカハラ 赤腹 *Turdus chrysolaus chrysolaus* Temminck 鳥綱・鶇雀目・鶇雀科の一種。雌雄異色で雄は頭・背はオリーブ褐色で、



アカハラ

喉は黒色を呈し、上腹・脇は黄色を帯びた灰色で美麗である。下腹・腹は白色。雌はマミチジナイの雌に似る。樺太・北海道・本州に分布し、本州は本邦各地に散在。北千島には本種に類似するオホアカハラ *T. ch. oris Yamashina* を産する。

アカハラガエル 赤腹蛙 = 「スズガエル」

アカヒゲ 赤鯉 *Luscinia komadori komadori* (Temminck) 鳥綱・鶇雀目・鶇雀科の一種。雌雄異色で、雄は背面・

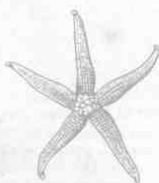
尾羽は美麗な橙褐色、前額・眼先・顴骨・上唇は黒色。下腹以下の下面は白色、脇は黒色部がある。雌の背面は褐色を帯びた灰色で、喉・顴骨は白色で頰縁が灰褐色、腹は白い。琉球列島の奄美大島・徳之島等に棲息。その鳴聲を聞かされる。本種に類似する種は、ホントウアカヒゲ *L. k. namiei* (Stejneger) (沖縄島特産)・ウスアカヒゲ *L. k. subrufus* (Kuroda) (石垣島・與那國島産) 等である。



アカヒゲ

アカヒトデ 赤海星 *Certanorhoa semiregularis* (Müller & Troschel) 棘皮動物・海星綱・海星目・一種。殻は5角形で、其の縁面は赤く腹面は淡褐色である。皮部は口縁に存在せず、背板は規則正しく排列する。美しい斑紋を呈し、鮮豔する。本邦南方の淺海に普通である。

アカボウクジラ *Ziphius cavirostris* Cuvier 哺乳綱・鯨目・ツチクダ科の一種。體形略・ツチクダに似て、下顎は上顎より前方に長く突出する。



アカヒトデ